

伊勢市統計レポート

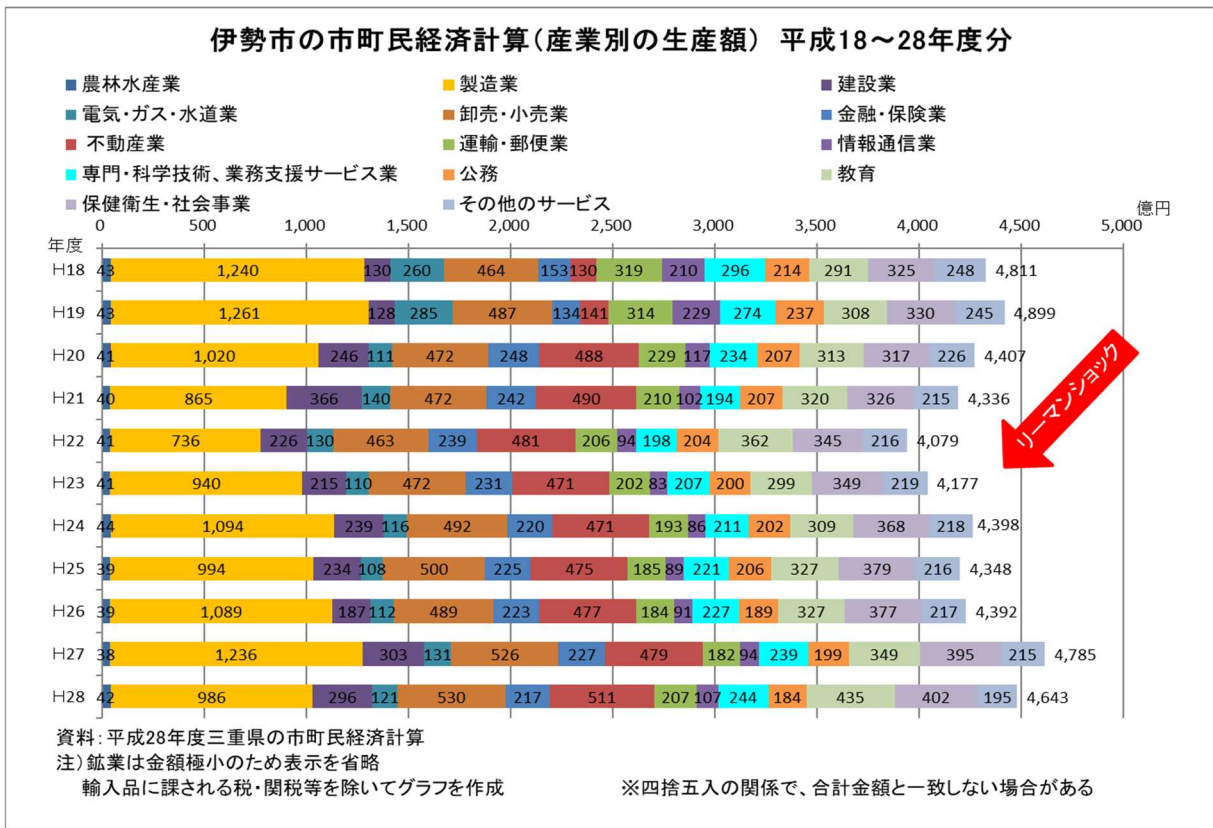


伊勢市人口ビジョン 令和2年3月版 【伊勢市の産業動向】

「伊勢市人口ビジョン 令和2年3月版」では、伊勢市への定住意向に大きな影響を与える“働く場所”としての特徴を把握するため、産業や就業者の構成等の分析を行っています。

今回のレポートでは、伊勢市の経済活動規模の推移や、産業別人口の特徴をみていきます。

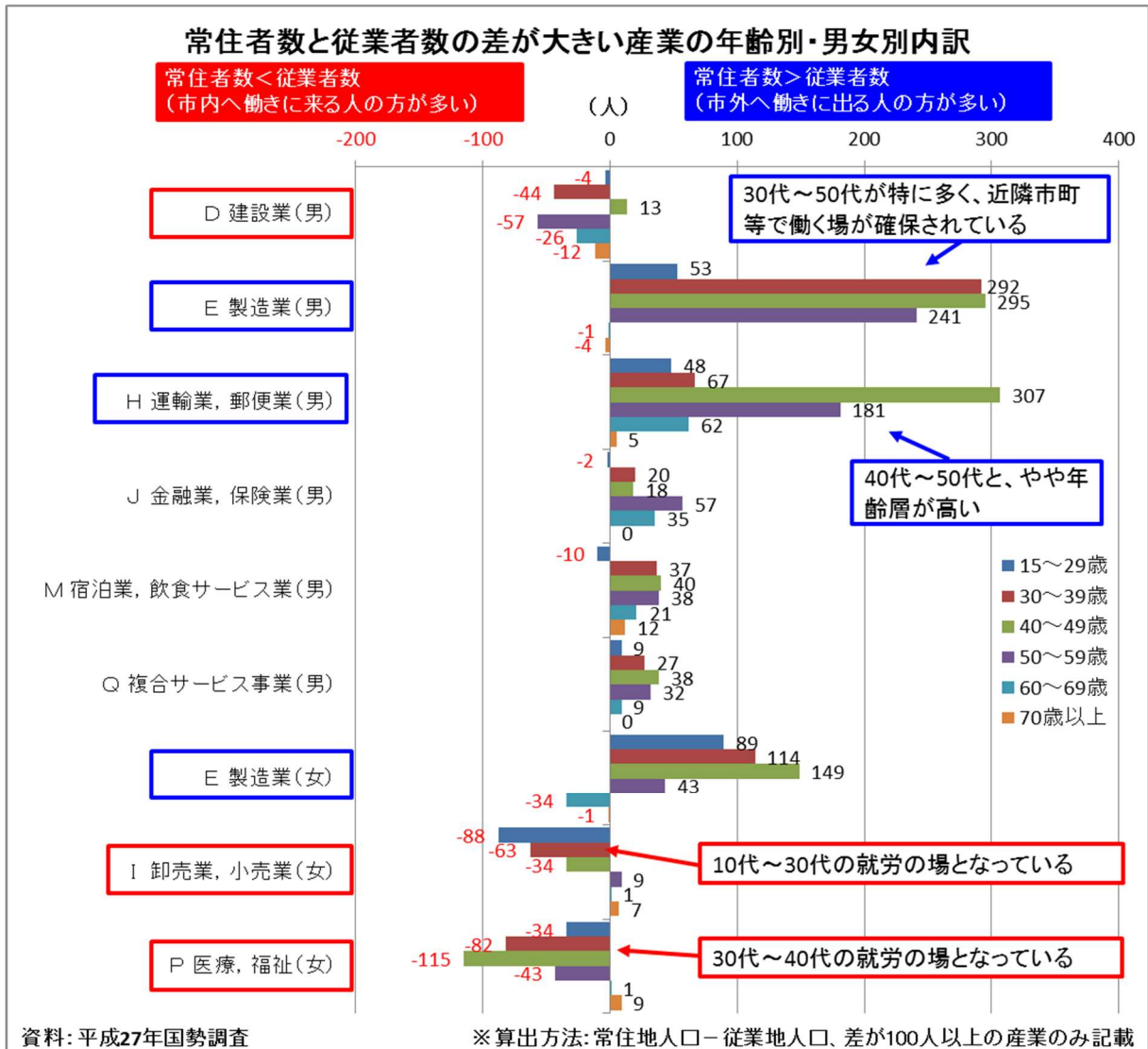
■ 市民産業経済計算の推移



- ・製造業や教育の生産額が比較的大きい。
- ・平成19年度までは、いざなぎ景気による拡大期で経済規模が拡大している。
- ・主な変動は製造業によるもので、平成20年度のリーマンショックやそれ以降の全社的な事業見直し等によるものと推測される。
- ◆各産業において、特定産業への大きな偏りがなく経済活動が行われており、良く言えばバランスが良い、悪く言えば強みがないといえる。

※産出額（出荷額・売上高等）－中間投入額（原材料・光熱水費等）＝生産額（付加価値額＝新たに生み出された価値）

■ 産業別人口



- 常住者数>従業者数(市外へ働きに出る人の方が多い)産業
 - ・男性の製造業では、30代~50代の層が特に多くなっている。
 - ・男性の運輸業・郵便業では、40代~50代が多くなっている。
 - ・女性の製造業では、10代~40代の層が多くなっている。
- 常住者数<従業者数(市内へ働きに来る人の方が多い)産業
 - ・男性の建設業では、30代・50代で多くなっている。
 - ・女性の卸売業・小売業の10代~30代や、医療・福祉の30代~40代で多くなっている。
- ◆最も就業者数の多い製造業で市外へ通勤する人の方が多いのは、市内の製造業での働き口が少ないためと考えられる。反対に、医療、福祉や卸売業、小売業で、市内に働きに来る人の方が多いのも、産業の特徴を表していると考えられる。